

会頭就任に際して

平成 28 年 11 月 1 日

会頭 河野康志

去る 9 月 20 日の臨時議員総会にて、会頭にご推挙いただき、本日 11 月 1 日をもって就任することになりました。

山口商工会議所は明治 40 年 3 月に“山口実業談話会”として創立され 109 年、昭和 29 年 10 月に現・商工会議所法により改組され 62 年が経ちました。齋藤前会頭を初め、役員各位の卓越な手腕、会員諸兄姉の深いご理解とご協力により、内にあつては部会編成、委員会事業の充実に意をそそがれ、外にあつては県政の中心地として和衷協同よく其の使命を達せられ、経済界激変のさなかにあつても着実な歩みを続けてこられました。その様な中、折角、本格的活動期を迎えた今日、不図も会頭に選任されましたことは、洵に身にあまる光栄と感謝いたしますと共に、使命の重大さを痛感している所です。

思うに山口市は、県政の中心地であると共に、大内文化の西の京として、また、明治維新策源地として幾重にも織り成す歴史と伝統に培われ、中心市街地の形成と相まって高度の文化都市として発展して参りました。昨今においては JR 新山口駅周辺の開発計画が進むなか、山口宇部連携中枢都市圏に向けた新しい経済圏の形成など、人口減社会がもたらす厳しい地方経済の中にあつても、持続可能な社会基盤づくりの推進が、山口市政の今の大きな課題となっています。

山口商工会議所においては、平成 14 年 4 月に小郡商工会議所と、全国初の会議所同士の合併を果たし、会員数はピーク時が 3,346 事業所に達しましたが、現在は約 2,800 事業所で推移しています。毎年、200 を越える新規入会を頂いている中、それ以上の退会、廃業が多い現実を見るにつけ、中小企業が置かれている経営環境の厳しさ、事業継承の厳しさを痛感し、商工会議所として今まで以上に中小企業の経営改善を支援し、頼りにしていただける会議所であらねばと、その責任を強く感じています。

大内氏が山口に町を開いて約 660 年、その歴史と伝統の中で形成されてきた経済圏、そして新たな広域交流の中で醸成されつつある経済圏、両者が共に協調しながら発展していくことが山口市勢伸張の上においてとても大切な道であり、本日、お越し頂いた渡辺市長の進める山口市政の要でもあり、よく連携していきたいと思っています。

商工会議所は地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資することが目的です。これからの地域経済の発展に、些かなりとも寄与したい念願から、浅学菲才をも省みず、諸課題に陰に陽に私の全力を投入したいと思っております。幸い小田村、川久保、石田、末永の諸氏が副会頭に承認され、そして又、練達の役員各位のご就任を得ましたことは、何にも増して心強いことであり、これからの任期中、会議所本来の役割を見直し、活発な部会活動、或いは新設の委員会活動を通じて全商工業者の意思を重んじ、着実な施策を打ち出し、実施に移したいと考えております。

以上、簡略ではございますが、所懐の一端を申し述べ、今後一層のご支援をお願いし、就任の挨拶と致します。